

## 2. 来賓挨拶

国土交通省都市局長 青木由行氏

皆さま、こんにちは。本日は、全国エリアマネジメントネットワークのシンポジウムが盛会で開催されておりますことをお喜び申し上げます。また、いつも国土交通省の行政の推進にご協力を賜っておりますエリアマネジメントネットワークの皆様には、私どもの職員とさまざまな繋がりを持っていただいております。私たちが行政の立場で仕事をしている時に、現場で様々なご苦勞をされたり、あるいは成果を出していらっしやったりする方と繋がりを持つということは、大変ありがたいことです。この活動が三年目と伺っていますが、国土交通省としても素晴らしい取り組みにできる限り協力していきたいと思い、本日参りました。私は、この7月31日に都市局長に異動したのですが、実は13年間、都市局を離れていました。13年前に今のまちづくり推進課の室長をしていた時に、大丸有のお話や海外のBIDというものが何か日本でできないかというお話もありましたが、その時はまだ全体的に盛り上がっているところまではいっていませんでした。以来、私はもともと都市局が大好きで、まちづくりが好きで建設省に入った部分もあったので、応援団的に外から見っていました。最初は民間の皆さんの取り組みが自発的に出てきて、官の方が制度的にうまく対応できていなかったことが多かったと思いますが、行政も受け身ではなく、積極的に連携してwin-winになることを追求する動きが加速しているように思います。私が来る前に法改正されたスポンジ化対策等の内容を勉強しますと、行政の方が積極的にエリマネ活動に関わっていこうというのが最近の動きではないかと思っています。仕組みが変わってきたのですから、今までの固定観念で「これは官、これは民」ではなく、いろいろな場面での官と民のベストミックスがあるのだろうと思っています。

その流れの中で、私の方でこういったことをできたらということが何点かあります。1つは人口が減っていく中で、生産性を上げろとよく言われます。生産性というと、少ない人数で効率的に仕事をするとイメージがありますが、私は付加価値をつくっていく、分母と分子の、分子を大きくしていくことが大事だと思っています。都市という装置の様々なネットワークの中で、出会いがあって、そしてイノベーションが生まれる空間をどうやってつくっていくかが一つのテーマかと思っています。それから、それぞれのまちの特徴とか経緯にあった形で、消費と投資がまわっていく空間をつくるのが大事ではないかと思っています。また、今よく高齢化と言われますが、社会にインパクトを与えるのは長寿化だと思っています。まちの中でいかにつながりを持って幸せな時間を過ごし、自分なりに付加価値を実現する活動ができるのが大切になると思います。物理的にも社会的にも、一つは居場所がなければいけない、一人ではなく多くの人と関わりをもって居場所を持つという事が大切だと思っています。それから、出かけて行って人に会ったりす

る用事があることも大切な側面だと思っています。そして最後に、ご承知の通り最近では災害が増えており、雨の降り方一つをとっても本当に変わってきたと言われます。実は、この渋谷もかつては浸水したことがあり、今は対策がされていますが、エリアマネジメントの取り組みの中で災害に対するまちの強靱性もこれからの一つの大きいテーマになってくると思っています。

私ども国交省としても皆方と志を同じくして連携してしっかり取り組んでいきたいと思っています。これからも、ぜひつながりを持たせてください。今日お集まりの各地で取り組みをされている皆様方のこれからのご発展とご健勝、そして本日のシンポジウムが有意義になることを祈念しまして、ご挨拶とさせていただきます。